

信貴福祉会 2021年度 事業報告

はじめに

昨年度は引き続き新型コロナウイルス感染症が広がり、第5波・第6波では仲間・家族・職員が大変な苦労を強いられました。特に放課後等デイサービス、ショートステイ、ヘルパーステーションへの影響は大きく、2019年度比で745万円の減収となりました。法人にとっても人員体制や財政面で非常に厳しい事業運営となりました。保健所の機能が麻痺し、入院できない人が続出し、福祉施設でクラスターが発生しても医療支援は届かず、施設での療養を余儀なくされ、特に大阪府では多くの死者数となりました。その背景には保健所の統廃合や人員削減、地域医療計画に基づく公立公的病院の統廃合による病床削減などがありました。当法人でもグループホーム利用者の感染時には、入院できない利用者を管理職や担当職員が中心となり感染覚悟で支援してくれましたが、医療機関のような環境を整備することは困難でした。この時の教訓からつくしんぼ作業所3階フロアのゾーン分け、必要な対策について看護師と検討しています。コロナ感染症に限らず、平時から入院治療が必要となった時、障害の有無や特性に関係なく適切な医療を受けることが出来る医療体制の整備を求めています。

2021年度は3年ごとの報酬改定の年でしたが、表向きは重度障害者への支援を評価と言いながら、区分が軽い人の報酬単位を下げる、就労継続A型にスコア方式を導入し、労働時間に応じて報酬を細分化する、またB型事業でも平均工賃による報酬を細分化するなど、成果主義による仕組みがより強化されました。放課後等デイサービスでは基本報酬が大幅に削減され多くの事業所が経営難に追い込まれています。当法人では生活介護の新規利用者増や重度支援加算の拡大、常勤看護師加算、グループホームでの重度支援加算などにより昨年度を越える基本収入を確保できましたが当初予算より大幅な減収となっています。

1. 法人事業報告

■利用者支援の向上をめざす事業・実践

①就労事業の拡充、自立できる工賃保障

就労継続事業では「給料を増やしたい、もっと働きたい、一人暮らしをしたい」などの仲間の要求を受け止め、仲間たちが労働を通して自信や自己肯定感を育み、工賃アップが彼らの生活の広がりにつながる実践を進めてきました。

②利用者の心身の変化に対応した実践内容の充実

生活介護事業では障害の重い人たちや高齢化に対応できるよう二施設で看護師を常勤配置し、医療機関との連携を強化して行うことができました。また、集団での労働がもつ意義をしっかりと確認しながら、作業だけでなく様々な取り組みを班の仲間たちの状況に合わせて考えてきました。困難ケースについては専門家の力も借りながら試行錯誤しながら取り組んできましたが、作業や諸活動の中でモノや人（仲間や職員等）とのかかわりを通して人との関係を拓いていく実践に今後も取り組んでいきます。一人一人の仲間にとって必要な日中活動の場のあり方についてさらに充実させていきます。

③利用者の多様な暮らしのあり方について課題を共有していく

暮らしの支援では、全体職員会議で仲間たち一人一人の将来の暮らしのあり方について議論し、合同ケース会議を通して現状を把握するなどしてきました。仲間の高齢化による心身機能の低下、障害の重度化への対応として建設型グループホームの検討をしてきました。事業の必要性を職員間で共有できるよう取り組ん

でいきます。

■法人組織体制の拡充、強化

①法人運営会議の設置

常任理事会だけでは十分現場の声を把握できていないのではないかという反省から法人運営会議（理事長含め5名）を設置し、ここで現場の状況を把握し、集团的議論を経て法人としての指針を明確に示せるよう取り組んできました。管理職会議も含め、活発な議論によって幹部職員が方針を共有し職員にしっかり説明できるようさらに機能を向上させていきます。

②経営・管理職員の研修拡充

経営職・管理職の責任、あり方について、外部役員等による面談や研修を行ってきました。働きやすい職場環境を作っていくためには、まずは経営職・管理職一人一人がお互いに遠慮なく意見を出し合い議論を重ね、決定した方針を責任をもって示していける、そういう集団になっていくこと、同時に職員から信頼され、相談される人材になっていくことをめざしていこうと決意しました。

③非常災害対策計画の策定と周知

災害危機管理マニュアル（BCP計画）及び新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画案を作成し、職員に意見を求めるところまで実施できました。災害時の連絡網を確立した上で家族にも説明するなど周知していく課題が残されています。

④月次財政報告による改善計画、月次予算の実行

顧問会計事務所の支援による財政会議において、各事業管理者が月次の財政状況から必要な改善策を考えていく力、事業計画と予算作成について学び、次年度の予算作成に取り組むことが出来ました。各事業管理者が月次決算を意識できるようになり、今後はいかに早く対応策を打っていけるようになるかが課題です。

■人材確保・育成・定着の推進

①広報機能を充実し人材確保を強化

近年、新卒採用がより難しくなってきたこともあり、若い学生に関心を持ってもらえるようなホームページのリニューアルや、動画作成、パンフレットの作成に、若手職員の力を大いに発揮してもらいながら進めてきました。経営職・管理職による近隣大学への訪問や、交流のある先生を通しての求人活動など新卒採用に重点を置いて取組、また合同説明会への参加、法人説明会を毎月計画するなど精力的に取り組む4名の新卒者を採用することができました。今後、オンライン合同説明会への参加や、法人独自のオンライン説明会の開催などにも取り組みます。

②社会福祉士実習、職場実習等の受け入れ拡充

社会福祉士実習、短大生の職場実習等はコロナ禍での制約があり、一部実施することができましたが、拡充とはいきませんでした。それでも、どういう実習にしていくか事前にしっかり準備し目的を明確にして取り組んできました。

③研修計画の充実

別添のとおり、研修会議で企画したキャリア別研修や、虐待防止研修、経営職・管理職研修、非常勤職員研修、全体研修などの内部研修に取り組みました。また、コロナ禍でオンライン研修が増えたことで、各種団体の多様な研修に参加することができたことは職員にとっても機会が増え、また伝達研修を実施することでみんなが共有することができました。責任者職を中心とした実践検討会では、これから実践のリーダーと

なっていく存在としてレポート作成にむけて議論を重ね実践力を培ってきました。今後も現場のリーダーとなっていく人材の育成と同時に、それを支援し実践方針を指し示していく管理職の育成が課題となっています。(研修計画一覧参照)

④働き甲斐、定着につながる労働条件改善、福利厚生の拡充

時間単位有休休暇の実施や子育て世代や親の介護世代が少しでも活用できるよう、子の看護休暇及び介護休暇の有給化と時間単位の利用、また非常勤職員の特別休暇の均衡待遇など労働条件を改善してきました。また、職員の処遇改善臨時特例交付金を活用し、2月から新たな手当を創設しました。今後職員の高齢化に伴い、スキルを現場で活かせる人材確保の仕組みなども課題となります。

⑤働きやすい職場づくりに向けた労務管理能力の向上

経営職・管理職の労務管理能力の向上を目的とし、外部役員による管理職研修を実施、また管理職・主任面談を行いました。ハラスメント防止対策について理事会、法人運営会議で議論する中で、日ごろからコミュニケーションをとる機会を作り、信頼関係を築いていくことで、職員一人一人が何でも言い合える職場にしていくことが基本課題と考えました。まずは法人運営会議や管理職会議でそのことを実践してきました。また、職員が感じている、抱えている具体的な職場課題を掴むために業務改善アンケートを実施し、改善に向けた取り組みを進めています。職場からの声のいくつかは、法人としての対応の意図がしっかり伝わっていないこともあり、丁寧な説明が必要と総括しています。また同じように課題として受け止めているものも多くあり、職員の率直な意見を聞くことができたことで、直ぐに改善できた内容もあります。

■地域における障害者支援のネットワークづくり

①家族会と連携し地域活動に取り組む

コロナ禍で家族会定例会も数回しか開くことができず、地域での活動もほとんどできませんでした。それでも国会請願署名や物品販売、きょうされん賛助会員や後援会員の拡大、大阪府懇談、政府懇談などに共に取り組んできました。こうした取り組みを家族会も一緒になって進めていることは大きな力です。家族会会員の高齢化が進み、なかなか一堂に集まることも難しくなっている中で、若いお母さん方も増えてきました。家族会の大切な役割を引き継いでいかれることを期待し、これからも協働していきます。

②事業・地域活動を通して障害児・者家族との関係づくり

相談事業や法人の各事業を通して、地域の障害児・者、家族との関係づくりを進めることは地域づくりにとって大変重要と考えていますが、現状は十分できているとは言えません。特に、障害児・家族との直接の接点でもある放課後等デイサービス事業「すきっぷ」は、度重なる報酬改悪により運営は大変厳しくなっています。しかし、法人としては、「すきっぷ」を卒業して法人の通所施設やショートステイ、ヘルパーステーションなどの利用につながってほしいし、子どもが小さいころから親が自立できる社会的支援の整備を実現し「普通の市民としての暮らし」を実現していく運動にとっても大変重要な事業と位置づけてきました。家族とのつながりを広げていくために積極的に情報を発信していきます。

③自立支援協議会の活動、地域における障害者支援のネットワークづくり

今年度は自立支援協議会の活動を通して障害者基本計画や障害福祉計画、障害児福祉計画策定に関し意見を述べるなど市の障害福祉施策に対して一定程度当事者の声を反映させることができました。また、自立支援協議会事務局や各部会活動を通して入所施設やグループホーム利用者の高齢化、重度化への対応や、地域生活支援拠点のあり方、新型コロナウイルス感染症発生時の対応などについて市内の事業所及び障害福祉課と課題共有し取り組んできました。コロナ感染時の臨時施設の利用、グループホームへの訪問看護師派遣モ

デル事業、緊急時の生活支援登録制度実施などはこうした活動の成果といえます。

昨年3月末に作業所連絡会としてコロナ対応に関する要望書を市に提出し懇談をもつ中で、障害福祉事業の利用者、職員への定期PCR検査の実施や、感染した場合の優先入院、適切な介護支援が受けられる療養施設の確保、ワクチン優先接種など要望してきました。職員への月2回の定期検査実施、障害福祉事業所利用者・職員へのワクチン優先接種（八尾市外在住者も含む）など市としての取組にもつながりました。

④障害児・者の権利を守る運動に参画

法人理念の実現のためにも、地域や全国で活動する様々な関係団体と共に障害福祉の現状を発信し、社会問題として啓発していく運動に積極的に関わっていくことが私たちの役割です。後援会活動、きょうされん運動などを通して利用者・家族・職員の権利を守り発展させていくための活動や、分野を越えて社会保障、社会福祉制度の改善を求めて全国的な運動に労使ともに参画してきました。担当についた若手職員が自らの課題でもあることを学びながら奮闘してきました。コロナ禍における雇用調整助成金、かかりまし経費補助金、慰労金の支給、PCR検査の定期検査実施、ワクチンの優先接種、生活介護など一部事業への在宅支援による報酬など、声を上げることで政策に影響を与えました。こうした成果に確信をもって、すべての職員が福祉制度の改善に向けた運動に主体的に参加してもらえるよう引き続き取り組みます。

■中・長期の計画を持ち、施設・設備の整備

①第2期中期計画(2017～2021年度)に沿った設備整備の推進、建物長期修繕計画の実施

社会福祉充実財産を活用して、建物長期修繕計画に基づき、つくしんぼ作業所の建物修繕と就労事業清掃班の設備を拡充する環境改善工事を実施しました。各施設、グループホームの電気・ガス・水道設備の更新、また車両の購入、修繕等を実施、コロナ感染症対策に必要な備品等の整備、安全確保のため全車両にドライブレコーダーの設置などを進めました。当初予算通り建物長期修繕計画に基づき修繕積立金を実施できましたが、職員へのコロナ対応慰労金支給財源として人件費積立金を全額取り崩しました。今年度決算の基本収入は伸びましたが、それを上回る人件費支出の伸びにより、初めて人件費率が75%を越え、損益計算書で通常の事業運営収支は赤字となりました。中長期的な財政運営の視点から事業計画を見直していきます。

2. 理事会・評議員会の開催及び監査の実施

(1) 理事会の開催

第1回理事会 6月11日(金)	第1号議案 2020年度監事監査報告について 第2号議案 2020年度事業報告について 第3号議案 2020年度決算報告について 第4号議案 社会福祉充実計画案について 第5号議案 評議員選任・解任委員の選任について 第6号議案 新役員(理事・監事)候補者の選任について 第7号議案 定時評議員会について
第2回理事会 6月19日(土)	第1号議案 理事長の任期満了に伴う改選及び常務理事(業務執行理事)の選定について 第2号議案 評議員選任候補者の推薦について

<p>第3回理事会 10月22日(金)</p>	<p><業務執行報告> 1) 2021年度中間決算報告 2) コロナウイルス感染症対応の報告 3) 2022年度職員採用状況について <審議事項> 第1号議案 主たる事務所移転に伴う定款変更について</p>
<p>第4回理事会 3月1日(火)</p>	<p><業務執行状況報告> 1) コロナウイルス感染症対応状況報告 2) 第3期中期計画案の策定に向けて 3) 人事労務管理対応について 4) 組合からの要求書と対応について <審議議案> 第1号議案 2021年度補正予算案(決算見込)について 第2号議案 2022年度事業計画案について 第3号議案 2022年度当初予算案について 第4号議案 就業規則・給与規程等の改定案等について 第5号議案 評議員会の開催について</p>

(2) 評議員会の開催

<p>定時評議員会 6月19日(土)</p>	<p><報告事項> 1) 新年度体制について 2) 新型コロナウイルス感染症対応の経過 3) つくしんぼ作業所改修及び環境改善工事完了について 4) 就業規則等の改定について 5) 2020年度監事監査報告について <審議議案> 第1号議案 2020年度事業報告について 第2号議案 2020年度計算書類及び財産目録の承認について 第3号議案 社会福祉充実計画案について 第4号議案 任期満了に伴う役員の選任について</p>
<p>第2回評議員会 10月22日 (金)</p>	<p><報告事項> 1) 2021年度中間決算状況について 2) 新型コロナウイルス感染症に係る状況について 3) 2022年度職員採用状況について <審議議案> 第1号議案 主たる事務所の移転に伴う定款変更について</p>

第3回評議員会 3月25日 (金)	<報告事項> 1) コロナウイルス感染症対応状況について 2) 処遇改善交付金の活用について <審議事項> 第1号議案 2021年度補正予算案(決算見込)について 第2号議案 2022年度事業計画案について 第3号議案 2022年度当初予算案について
-------------------------	---

(3) 評議員選任・解任委員会の開催

6月19日(土)	評議員選任の審議について
----------	--------------

(4) 監査の実施

<内部会計調査>

調査者名	調査実施日	調査項目
税理士法人 中央会計	2022年5月20日	決算帳票、会計帳簿全般
	2021年10月27日	上半期会計帳簿全般
	2022年1月24日	源泉徴収、年末調整

<監事監査>

監事名	監査実施日	監査項目
中村公三 監事 亀田智史 監事	2022年6月3日	法人定款第18条第1項の規定に基づき 2021年度事業に係る理事の業務執行の 状況及び法人の財産の状況

3. 運営協議会の開催

第1回運営協議会 11月24日(火)	<議題> 1) この間のコロナ関連の動向(法人・市の対応) 2) 障害者総合支援法の見直し 3) 八尾市の動向(①地域生活支援拠点等事業の整備状況、②八尾市 自立支援協議会の活動)
第2回運営協議会 3月22日(火)	1) この間のコロナ関連の動向 2) 2022年度事業計画

4. 職員の研修状況

階層別内部研修	研修内容
新任研修 (法人職・一般職・ 一部非常勤職含む)	① 法人の歩みと理念 ② 私たちの仕事と就業規則 ③ 働く・暮らす・相談する ・人が働く意味(一般就労と福祉就労) ・私たちの生活と暮らしの場 ・人に頼ることの意味

1～2年目 (法人職・一般職)	利用者支援における専門職の役割 ① 大事にしたい利用者支援の視点と障害特性の理解 ② 利用者支援のあり方からみた障害福祉制度と事業の考え方 ③ 利用者支援における記録の意味と活用
2～5年目 (法人職・一般職・非常勤職)	“私たちが考える支援”と制度動向
6年目以降 (同)	支援を振り返る(実践研レポートから)
責任職・主任・副主任・事業管理者	① ソーシャルワーカーに必要なもの ～支援の軸はどこにあるのか～ ② 円滑な運営のために ～集団におけるリーダーの役割～ 追加研修 会議の進め方
経営職・管理職	～風通しのいい風土づくりのために～ ① 社会福祉の動向と社会福祉法人の課題 ② 社会福祉法人が直面している問題と今後
全職員	① 障害者の生活を考える ～障害基礎年金制度について～ ② 生活者としてみたスウェーデン 社会のジェンダー・バランスと少子化問題の視点から
その他	人権(虐待防止)研修① 支援における権利擁護の課題を考える① 放課後等デイにおける児童支援 人権(虐待防止)研修② 支援における権利擁護の課題を考える②
外部研修	全国社会福祉協議会、社会福祉法人経営者協議会、大阪府社会福祉協議会、全国・近畿・府社協セルブ、大阪府、八尾市、日本障害者センター、社会福祉経営全国会議、きょうされん、知的障害者福祉協会、大阪障害者センター、総合社会福祉研究所、八尾市自立支援協議会、社会福祉施設経営者同友会、全国就業支援ネットワークなど

5. 実習生の受け入れ

社会福祉士実習生受入 関西福祉科学大学 1名

学生実習受入 常磐会短期大学 3名

八尾支援学校高等部実習受入

6. 事故・苦情報告 *活動センター ヒヤリハット 7件 事故 1件

通所施設	ひばり作業所	ワクワクセンター	つくしんぼ	りんごの木
事故件数(昨年度)	12(25)	1(1)	0(0)	0(0)
ヒヤリ・ハット件数(昨年度)	83(107)	55(58)	34(50)	20(25)
苦情・要望等件数(昨年度)	7(5)	5(0)	1(1)	5(5)

居宅事業	ショートステイ	グループホーム	放課後デイ	ヘルパーステーション
事故件数(昨年度)	13(2)	30(9)	4(0)	5(1)
ヒヤリ・ハット件数(昨年度)	38(10)	128(71)	123(189)	63(29)
苦情等件数(昨年度)	10(4)	1(3)	6(0)	6(7)

各施設・事業の報告

1. <通所施設の状況>

①障害支援区分(利用延べ人数平均)

内 訳	ひばり生活介護	ひばり就労継続	ワクワクセンターひばり	つくしんぼ作業所	りんごの木
平均支援区分	5.9	4.7	5.7	4.1	4.2
(前年度)	5.7	4.8	5.7	4.1	4.2

②利用状況(定員)

通所施設	ひばり(60)		ワクワク(35)	つくしんぼ(20)	りんご(20)
事業種別	生活介護	就労継続B	生活介護	就労継続B	就労継続B
開所日数(年)	240	240	240	245	240
利用率(%)	81.4	77.0	85.7	82.2	84.1
前年度利用率	86.2	72.8	85.7	79.7	84.2

③工賃支給状況

通所施設	ひばり		ワクワク	つくしんぼ	りんご
事業種別	生活介護	就労継続B	生活介護	就労継続B	就労継続B
月平均工賃(円)	2,824	12,354	5,916	55,313	30,063
(前年度)	2,712	12,141	5,353	53,970	28,385
最高工賃(円)	4,400	21,750	11,180	76,825	52,125
(前年度)	4,020	20,450	11,450	76,139	52,395

2. <地域活動センターひばり>

()は前年度

内容 / 項目	デイサービス	ウォーキング	お菓子づくり①	お菓子づくり②	墨 絵	工作/園芸	料 理
スタッフ	職 員	八尾山の会	職 員	職 員	石見先生	飯尾先生 川江先生	岩井先生
延べ利用者数(人)	85 (73)	102 (65)	53 (40)	50 (34)	60 (34)	70 (43)	51 (36)
実施日	第3土曜・日曜、 第4日曜	第3土曜	第3土曜	第4日曜	第3土曜	第3日曜	第3土曜

2. 居宅事業の状況

<グループホーム>

ホーム利用者状況 ※2022年3月1日現在

ホーム	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	全体
開所歴	27年目	25年目	25年目	5年目	22年目	16年目	16年目	13年目	13年目	9年目	
入居者数	4人	7人	4人	3人	6人	5人	5人	4人	5人	3人	46人
平均年齢	61歳	60歳	54歳	56歳	60歳	47歳	46歳	51歳	49歳	51歳	平均54歳
平均区分	5.3	5.6	5.3	5.7	5.2	4.4	4.0	4.5	4.4	6	平均5.0
4~2月の利用率	99.1%	99.6%	96.8%	99.9%	97.9%	92.8%	98.3%	98.9%	98.0%	98.6%	平均98.0%

各ホームの支援体制 ※2022年3月1日現在

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
世話人	7	9	4	4	5	5	6	4	9	4
支援員	0	3	1	3	1	3	0	3	4	4
夜間体制	2	3	1	1	2	2	1	1	2	1

<ショートステイ>

(下段：前年度)

(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均・総数
利用者数	47 48	42 36	47 44	45 45	40 48	44 49	43 47	46 49	46 45	43 41	42 47	44 47	47 49
のべ人数	223 195	221 154	222 207	221 200	139 200	195 221	221 241	219 216	212 219	206 201	189 206	186 220	2444 2480
平均人数	7.4 6.5	6.8 5.0	7.4 6.9	7.1 6.5	6.0 6.5	6.5 7.4	7.1 7.8	7.3 7.2	7.6 7.8	7.6 7.4	6.8 7.4	6.9 7.1	7.1 6.9
利用率	92.9 81.3	87.9 62.1	92.5 86.3	89.1 80.6	75.5 80.6	81.39 2.1	89.1 97.2	91.3 90.0	94.6 97.8	95.4 93.1	87.5 92.0	86.1 88.7	88.3% 86.8%

<放課後等デイサービス>

契約状況	小学(地域)	中学(地域)	高等部	総数
2020年度	8名(2名)	13名(1名)	28名	49名
2021年度	6名(2名)	11名(0名)	19名	36名

利用状況	開所日数	延べ定員	延利用数	利用率	平均人数	実人数
2020年度	242日	2420人	2334人	96.4%	9.6人	48人
2021年度	244日	2440人	1928人	79.0%	7.9人	36人

平均利用回数	1回/週未満	1回/週固定	1回/週+α	2回/週以上
2020年度	16.3%	51.0%	8.2%	24.5%
2021年度	11.1(44.4)	47.2(19.4)	8.3(25.0)	33.3(11.1)

土曜開所	内容	人数		内容	人数		内容	人数
4月	余暇	5人	5月	高校生企画	中止	6月	ウォーキング	中止
7月	ウォーキング	9人	8月	ウォーキング	中止	9月	高校生企画	中止
10月	ウォーキング	10人	11月	ウォーキング	8人	12月	ウォーキング	10人
1月	ウォーキング	2人	2月	ウォーキング	10人	3月	卒所式	4人

*1月…支援学校が休校中（コロナ感染）のため8名がキャンセル

<ヘルパーステーション>

	利用時間		延べ人数	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度
移動支援	3994.5	3696.0	1687	1676
行動援護	0.0	6.0	0	7
居宅介護	2380.5	2531.0	1538	1703

<障害者・児生活支援センター>

○障害児（内訳）	小	中	高校	件数（昨年）
余暇・放課後の過ごし方	2	3	9	14（23）
障害の理解や対応	2	5	6	13（20）
家族に関する相談	1	6	6	13（15）
進路に関する相談	1	1	9	11（29）
学校生活の相談	1	2	1	4（3）
医療に関する相談	1	0	1	2（5）
各種制度の相談	1	0	0	1（1）

○障害者（内訳）	在宅	通所	就労	件数（昨年）
家族に関する相談	13	45	4	62（102）
暮らしの場の相談	9	44	5	58（80）
日中活動の相談	14	40	2	56（63）
障害の理解や対応	11	38	3	52（76）
居宅サービスの相談	17	27	5	49（73）
余暇の過ごし方	7	29	3	39（60）
医療に関する相談	7	17	2	26（51）
人間関係の相談	2	13	8	23（29）
各種制度の相談	2	14	6	22（27）
収入に関する相談	1	15	4	20（23）
人権に関すること	1	5	1	7（3）

認定調査	今年	昨年
件数	279	151

避難計画	
訪問件数	114

計画相談	今年		昨年	
	作成	モニタリング	作成	モニタリング
障害者	334	414	283	361
障害児	55	61	48	43

<未来を拓くゼミナール（日中一時支援事業）>

6月	ふるさと納税	12月	選挙制度
7月	ヤングケアラー（佛教大学 田中智子先生）※福祉のひろば取材	1月	夜間中学（映画「学校」）
8月	成年後見人制度	2月	夜間中学 （元・八尾中学校教員 中谷全徳先生）
11月	伊賀上野バス旅行	3月	1年のふりかえり

<障害者就業・生活支援センター>

実施状況		2021年度	2020年度
障害者に対する支援	登録者数	391名	352名
	新規登録者	59名	60名
	相談・支援件数	1,940件	1,743件
	就職者数	34名	28名
	職場訪問	123回	160回
	職場実習者	6名	12名
事業主に対する支援	相談・支援件数	322件	402件
	職場訪問	164回	179回

○精神障害者ジョブガイダンス事業

事業所に訪問し、障害者・支援者向けに講座を実施。（ちのくらぶ、清心会メンタルクリニック）
企業見学（ハウスあいファクトリー）

○障がい者雇用を考える集い

主催 八尾市、柏原市、大阪府総合労働事務所、八尾・柏原障害者就業・生活支援センター
日時 9月22日（水）八尾商工会議所
参加者 22名（企業・支援機関19名、その他）
テーマ 「地域で取り組む障がい者雇用～障がい者の“働きたい”を支える～」

○はたらく・くらすパワーアップセミナー（八尾市障がい者就労支援推進事業）

参加状況） やるきアップコース 就労移行 3名
しごとアップコース 就労移行 2名 就労継続A型 1名

○働く仲間のつどい（日中一時支援事業） 登録者 127名

実施回数 計7回（学習会4回、レクリエーション3回） 参加延べ人数 131名